

全国協議会 ニュース

**2015年1月1日発行
第271号**

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒101-0031 東京都
千代田区東神田1-3-4
KTビル3階
TEL.(03)5823-6360
FAX.(03)5823-6365
発行責任者:野村正満
http://www.marrow.or.jp/
E-Mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

25周年記念事業展開へ

全国骨髄バンク推進連絡協議会は1990年6月24日、全国のボランティア団体13団体の参加で設立しました。今年6月で「設立25周年」を迎えます。この四半世紀のあいだ、関係者がこぞって切望した骨髄バンクが発足し、さい帯血バンクも加わって造血細胞移植の世界も多くの変遷を経ました。そうした積み重ねを振り返りながら、新たな前進を目指すための数々の「記念事業」を展開します。年の初めに会長、理事長、関係機関のトップからの年頭のごあいさつをお届けします。

5月に早大へ集合



会長 中田順和

明けましておめでとうございます。早いもので、会長に就任してから1年半が過ぎました。昨年は私が座主を務めます京都・醍醐寺で記念大会・通常総会が開かれ、参加された皆様に境内をご見学いただきました。当寺の僧侶や支える会のメンバーもボランティアで運営に携わり、全国協議会の意義を広めることができましたと喜んでおられるところですが、私どもが設立25周年を迎えることとなります。そのため、記念事業実行委員会が昨秋から企画を練っており、記念

法律の適正運用へ

厚生労働省健康局疾病対策課
移植医療対策推進室長
阿萬 哲也

謹んで新年のお祝いを申し上げます。骨髄バンク事業は平成3年に開始されて以来、皆様の御尽力を賜り、毎年多くの方にドナー登録者になっていただき、骨髄バンクを介して行われた骨髄移植は現在までの累計で1万7000例を超えました。

これはひとえに、全国各地で骨髄バンク事業を支えて下さるボランティアの皆様や関係者の方々の御理解、御支援の賜物であり、この場をお借りいたしまして深く感謝を申し上げます。

こうした皆様の長年の取り組みを背景に平成24年9月に成立した骨髄バンク事業の法定化等を内容とする「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が、昨年1月1日より施行されました。

普及啓発にも注力

日本赤十字社
血液事業本部長 西本 至



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が、昨年1月1日より施行されました。

大会をはじめとして国際シンポジウム、医療講演・相談会、日本縦断キャラバン——と、盛りだくさんのイベントが予定されています。

思い起こされるのは、1999年に実施された全国キャラバンです。このときは釧路と那覇を出発した2台のキャラバンカーが、2カ月をかけて全都道府県を走破し、東京・早稲田大学大隈講堂でゴールイベントが開催されました。キャラバンカーは各地で折り鶴を託され、それを預かった私が「お焚き上げ」をしたのです。今年のキャラバンカーは1台ですが、各地の日本赤十字社血液センターを訪問する予定となっています。

まずは5月31日に開催の記念大会（早稲田大学国際会議場）で、全国の皆さまとお会いできることを楽しみにしています。25周年を機に、全国協議会は四半世紀を振り返りながら、骨

細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行されたのに伴い、日本赤十字社は造血幹細胞提供支援機関として指定され、各種連絡会議の開催や骨髄バンク・さい帯血バンク情報提供ウェブサイトを「造血幹細胞移植情報サービス」の開設、臍帯血採取施設向けの研修会等を実施して参りました。

こうした中で、日本赤十字社が帯びる造血幹細胞提供支援機関という使命の重さを感じるとともに、需要の拡大が見込まれる造血幹細胞のさらなる提供の推進に向け決意を新たにしております。

本年は、(公財)日本骨髄バンクと連携を図りつつ、骨髄バンクドナーの登録推進の活性化を進めるとともに、さい帯血バンクが移植に有用な臍帯血をより多く確保できる体制の確立に努めて参ります。

さらに、造血幹細胞移植にかかる普及啓発にも、貴協議会や有識者の方々をはじめとする関

財政安定が課題に

理事長 野村正満



今年、全国骨髄バンク推進連絡協議会は設立25周年を迎えます。骨髄バンクのボランティア運動は「わが国に骨髄バンクを作ろう」というところから始まり、私たちが現在の組織体を形成してから、早いもので四半世紀の時が経過しました。

例えば、何ら後ろ楯のない団体がここまで活動を継続できたことは、わがことながらいささかの驚きでもあります。この四半世紀を振り返りながら、骨

あつたからこそと思います。骨髄バンクを大きく育てていく運動、患者さんを支援していく運動はそれなりの成果を上げてきたものと自負して良いでしょう。

25周年の節目の時を迎え、これまでの運動をきちんと記録に残し、明日へ向かって進んでいくために、いろいろと記念事業を企画していますが、全国のボランティアの力で実のあるものにしていきたいと考えています。

一方、25周年の準備を進める中で、改めて痛感したのが全国協議会財政の課題です。現在の財政は私たちの運動がいつ終焉を迎えてもおかしくない危機的状況にあります。その兆候が佐藤さち子患者支援基金の申請受付休止に現れています。これまでも何度か財政危機はあったものの、そのたびに大きな善意に支えられるなどして何とか乗り越えてきました。

この問題は、私たちが抱える

ジェクト等に取り組んでまいりました。なお、ACジャパンによる支援につきましては、本年7月より再開される運びとなりました。

これからも一人でも多くの患者さんが、骨髄・末梢血幹細胞移植を受けられるよう、若年層を中心としたドナー登録者の増加、患者登録から移植までの期間短縮、そしてドナーの安全確保に一層努めてまいります。

今年もより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

田大学プロフェッショナルズ・ワークショップの学生とのプロ

心からのご寄付に 感謝申し上げます

11月21日～12月20日 (敬称略)

骨髄バンクを支援する会 (いわき)	現金 300,000円
徳島藍ライオンズクラブ	現金 100,000円
徳衛 徳衛	現金 50,000円
阿部 瀬良	現金 5,000円
塩谷 泰人	現金 1,000円
江上 義紀	現金 10,000円
藤倉 光枝	現金 100,000円
黒田 多喜男	現金 10,000円
ダブルエスタイガー	現金 30,000円
埼玉県立百間中学校 生徒会	現金 36,043円
埼玉県立百間中学校PTA	現金 20,000円
匿名	現金 6,000円
匿名	現金 5,000円
●白血病患者支援基金	
松橋クローバー薬局	現金 6,551円
松本 明子	現金 3,000円
中山 雅雄	現金 3,500円
中本 晴恵	現金 24,000円
匿名	現金 5,000円
匿名	現金 5,000円
●佐藤さち子患者支援基金	
骨髄バンクを支援する会 (いわき)	現金 250,000円
カラオケハウス マロン	現金 30,000円
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構	現金 3,546円
林 悦子	現金 2,000円
荒川 政信	現金 3,000円
長畑 仁郎	現金 3,000円
石橋 義之	現金 20,000円
森 千晶	現金 50,000円
大泉 二郎	現金 200,000円
佐々木 美智子	現金 500,000円
香川県立三本松高等学校 2年生一同	現金 8,450円
匿名	現金 2,000円
樋口 勇一	現金 10,000円
木山 善雄	現金 10,000円
匿名	現金 5,000円

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

2万参加者募集 2万円相当ご招待

埼玉県加須市の総願寺

私が住む街・埼玉県加須市には、関東三大不動の一方寺である不動ヶ岡不動尊・総願寺があります。総願寺では毎年、2月3日(火)の節分に鬼追い豆ま

き式を開催しております。この度、総願寺ご住職のご友人・宮本興業株式会社、代表取締役宮本登様がスポンサーとなり、鬼追い豆まき式に10人の方をご招待くださることにいたしました。昼食が付き(お膳に日本酒一合も)お一人様2万円相当の豆まき式です。また、豆まき式の時間帯に、骨髄バンクのPRタイムも設けてくださいます。

東武伊勢崎線・加須駅までの交通費は自己負担となります。

**バザーでの収益金
今年も贈呈される**

埼玉県・百間中学
12月16日(火)、埼玉県宮代町立百間中学校(小島久和校長)での募金贈呈式に出席しました。同校では、生徒会とPTAが長きにわたって骨髄バンク募金ボランティア活動に関わっており、バザーでの収益金を寄付していただいています。今年もまた、患者さんが笑顔になれるような活動を中学生が続けていることを大変うれしく思います。(大谷貴子)

役員選挙 1月20日必着です

2015年は全国協議会の役員改選の年であり、昨年10月に第8回役員選挙委員会組織されました。11月11日告示のホームページからダウンロードできます。会長、副会長、監事、推薦理事は正会員(加た推薦団体)の推薦が必須ですが、公募理事は推薦不要です。よくする意欲のある方の立候補をお待ちしております。立候補期限は1月20日(火)必着です。(第8回役員選挙管理委員長・黒部光司)

この危機を脱する努力を重ねると同時に、各地の運動にもその成果が還元できる道を模索していこうと、年頭にあたり自らに課題を課すことといたします。

そして、全国協議会の財政が

若手医療者への航空券提供事業

米国学会へ2人が参加

全国協議会では、「海外学術集会発表の渡航航空券提供事業」を昨秋から開始しましたが、昨年12月5～9日に開催の第56回米国血液学会年次総会(サンフランシスコ)に参加した医師2人に、初めて提供しました。この事業はデルタ航空のスカイウェイブ・チャリティ・プログラムを利用して、満40歳以下の若手医療従事者育成を目的とし、海外での学術集会に参加する際の往復航空券を提供するものです。日本造血細胞移植学会のホームページから全国協議会ホームページ上の募集要項にリンクされていますが、11月に締め切った第2次募集でも医師・理学療法士計3人に提供する予定で、米国血液学会の参加したお2人の寄稿を紹介します。



サンフランシスコChinatownで、左から稲葉寛人先生(St. Jude Children's Research Hospital)、高木正裕先生(東京医科大学)、筆者、青木由貴先生(東京医科大学)

学会登録データ発表 会場内外での交流も

虎の門病院血液内科

高木 伸介

今回は過去最高の2万6000人を超える参加者が集まったことと、毎年のことながらその規模の大きさは壮観でした。私自身も日本造血細胞移植学会の成人AMLワーキンググループから「フライデルフィア染色体陰性骨髄増殖性腫瘍から

発展した急性骨髄性白血病に対する同種造血細胞移植の成績」をポスター発表させていただきました。39ケースの解析でしたが、各移植施設にとって希少なケースをまとめる機会をいただきました。

会場では多くの先生がポスターの前に足を止めてくださり、学術的にも大変貴重なデータとなりましたので、滞りなく形にする作業を進めなければと気持ち新たにしました。また、会

場の外では、国内外で活躍されている先生たちとサンフランシスコの美味しいシーフードを囲む機会にも恵まれ、大変良い刺激をいただきました。

この事業により、より多くの若手研究者が世界に情報を発信したり、刺激を受けたりする機会を得ることができるといふことは必ずや日本の医療・医学の進歩にもつながると思います。本事業の今後のさらなる発展を切に願います。

「あのイラスト」が大今良時さん 「聲の形」がまた受賞

岐阜県大垣市出身の漫画家・大今良時さんの作品「聲の形」がこのほど、「このマンガがすごい!」2015(宝島社主催)の「オトコ編第1位」に選ばれました。その世界では第一人者の大今さんが描いた骨髄バンクイラストが、静かなブームを呼びつつあります。同市在住の田中重勝全国協議会副理事長に紹介してもらいました。



「聲の形」は2008年の第

民踊団体メンバーと共に上京した際にお会いし、里帰りされたときに色紙をいただきました。その後、地元で協力できることがあるならとの思いを知り、図々しくも骨髄バンク

への協力をお願いしました。イメージとして、骨髄バンクの普及啓発に活用したいので、子どもに「命のアサガオ」の入ったノボリを持たせてはと提案したところ、「女の子でいいかな」などのやり取りの末、1枚のイラストを写真に描いていただいたのです。

ちょうど、全国骨髄バンクボランティア大会が大垣に向けて準備中でしたので、全てのチラシに刷り込み、等身大のパネルも作成して多くの方に骨髄バンクをPRしていただきました。現在でもこのパネルは健康祭りなどに出向き、骨髄バンク啓発に一役を担っています。

先日、大垣市文化連盟賞を受賞され、小川敏大垣市長へ挨拶されたのが新聞報道されたところでした。なお、イラストのデータ(フルカラー2MB)を希望される方は協議会事務局へご連絡ください。

近くなり、とても濃密な4日間となりました。フライトは往路も復路もその場での搭乗便の変更があり大変でしたが、機内は空席も多くゆったりと過ごせました。結局燃油サーチャージ代の負担もなかったことはとてもありがたかったです。海外学会に参加することはレジデントや大学院生にとって費用面での負担は大きく簡単ではありませんが、参加してみてもその価値はあると思います。ぜひこの事業が続くことを期待したいと思います。

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

朗読の感想を話してくれました。また、アトラクションとして落語家の三升家う勝さんの「ドナー体験」と題しての講演があり、「相手の心を思いやること」「わかってくれる人がいること」「力」など、心を打つ言葉に、皆真剣に耳を傾けていました。(埼玉骨髄バンク推進連絡会・山中孝之)

第23回「いのちを考える」読書感想文コンクールの表彰式が、12月14日(日)、さいたま市浦和区、彩の国すこやかプラザで行われました。「いのちのあさがオ」を読んで感想文を書き、埼玉県知事賞に選ばれた小学校1年生の関口響夏さんほか21人に賞状などが贈られました。

表彰式には、多くの家族も参加し、受賞を喜ぶ姿が見受けられました。特別賞5人の、友達や家族を思いやる作品の朗読は、心に強く響き、会場は優しい雰囲気になりました。終了後、関口さんは、「緊張したけど、間違えなくて良かったです」と間違ったので良かったです。

第2部では、「末梢血幹細胞患者さん、ドナー経験者、移植経験者の方からそれぞれ体験をお話いただきました。

白血病と闘う久ちゃん(70代) 写真には、とってもパワフルな女性! 60歳を過ぎてから高校を卒業し、今は青森市の寿大学生。次は大学院を目指す

第17回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」が11月15日(土)、弘前大学で全国協議会ほかの共催で開催されました。

第一部では、「末梢血幹細胞とは」「無菌室ってどんなところ?」と題して青森県立中央病院の赤木副部長と坂本認定看護師の講演がありました。

第二部では、血液疾患と闘う患者さん、ドナー経験者、移植経験者の方からそれぞれ体験をお話いただきました。

白血病と闘う久ちゃん(70代) 写真には、とってもパワフルな女性! 60歳を過ぎてから高校を卒業し、今は青森市の寿大学生。次は大学院を目指す

「あのイラスト」が大今良時さん「聲の形」がまた受賞

岐阜県大垣市出身の漫画家・大今良時さんの作品「聲の形」がこのほど、「このマンガがすごい!」2015(宝島社主催)の「オトコ編第1位」に選ばれました。その世界では第一人者の大今さんが描いた骨髄バンクイラストが、静かなブームを呼びつつあります。同市在住の田中重勝全国協議会副理事長に紹介してもらいました。

「聲の形」は2008年の第

民踊団体メンバーと共に上京した際にお会いし、里帰りされたときに色紙をいただきました。その後、地元で協力できることがあるならとの思いを知り、図々しくも骨髄バンク

への協力をお願いしました。イメージとして、骨髄バンクの普及啓発に活用したいので、子どもに「命のアサガオ」の入ったノボリを持たせてはと提案したところ、「女の子でいいかな」などのやり取りの末、1枚のイラストを写真に描いていただいたのです。

ちょうど、全国骨髄バンクボランティア大会が大垣に向けて準備中でしたので、全てのチラシに刷り込み、等身大のパネルも作成して多くの方に骨髄バンクをPRしていただきました。現在でもこのパネルは健康祭りなどに出向き、骨髄バンク啓発に一役を担っています。

先日、大垣市文化連盟賞を受賞され、小川敏大垣市長へ挨拶されたのが新聞報道されたところでした。なお、イラストのデータ(フルカラー2MB)を希望される方は協議会事務局へご連絡ください。

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

朗読の感想を話してくれました。また、アトラクションとして落語家の三升家う勝さんの「ドナー体験」と題しての講演があり、「相手の心を思いやること」「わかってくれる人がいること」「力」など、心を打つ言葉に、皆真剣に耳を傾けていました。(埼玉骨髄バンク推進連絡会・山中孝之)

第17回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」が11月15日(土)、弘前大学で全国協議会ほかの共催で開催されました。

第一部では、「末梢血幹細胞とは」「無菌室ってどんなところ?」と題して青森県立中央病院の赤木副部長と坂本認定看護師の講演がありました。

第二部では、血液疾患と闘う患者さん、ドナー経験者、移植経験者の方からそれぞれ体験をお話いただきました。

白血病と闘う久ちゃん(70代) 写真には、とってもパワフルな女性! 60歳を過ぎてから高校を卒業し、今は青森市の寿大学生。次は大学院を目指す

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

「あのイラスト」が大今良時さん「聲の形」がまた受賞

岐阜県大垣市出身の漫画家・大今良時さんの作品「聲の形」がこのほど、「このマンガがすごい!」2015(宝島社主催)の「オトコ編第1位」に選ばれました。その世界では第一人者の大今さんが描いた骨髄バンクイラストが、静かなブームを呼びつつあります。同市在住の田中重勝全国協議会副理事長に紹介してもらいました。

「聲の形」は2008年の第

民踊団体メンバーと共に上京した際にお会いし、里帰りされたときに色紙をいただきました。その後、地元で協力できることがあるならとの思いを知り、図々しくも骨髄バンク

への協力をお願いしました。イメージとして、骨髄バンクの普及啓発に活用したいので、子どもに「命のアサガオ」の入ったノボリを持たせてはと提案したところ、「女の子でいいかな」などのやり取りの末、1枚のイラストを写真に描いていただいたのです。

ちょうど、全国骨髄バンクボランティア大会が大垣に向けて準備中でしたので、全てのチラシに刷り込み、等身大のパネルも作成して多くの方に骨髄バンクをPRしていただきました。現在でもこのパネルは健康祭りなどに出向き、骨髄バンク啓発に一役を担っています。

先日、大垣市文化連盟賞を受賞され、小川敏大垣市長へ挨拶されたのが新聞報道されたところでした。なお、イラストのデータ(フルカラー2MB)を希望される方は協議会事務局へご連絡ください。

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

朗読の感想を話してくれました。また、アトラクションとして落語家の三升家う勝さんの「ドナー体験」と題しての講演があり、「相手の心を思いやること」「わかってくれる人がいること」「力」など、心を打つ言葉に、皆真剣に耳を傾けていました。(埼玉骨髄バンク推進連絡会・山中孝之)

第17回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」が11月15日(土)、弘前大学で全国協議会ほかの共催で開催されました。

第一部では、「末梢血幹細胞とは」「無菌室ってどんなところ?」と題して青森県立中央病院の赤木副部長と坂本認定看護師の講演がありました。

第二部では、血液疾患と闘う患者さん、ドナー経験者、移植経験者の方からそれぞれ体験をお話いただきました。

白血病と闘う久ちゃん(70代) 写真には、とってもパワフルな女性! 60歳を過ぎてから高校を卒業し、今は青森市の寿大学生。次は大学院を目指す

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

「あのイラスト」が大今良時さん「聲の形」がまた受賞

岐阜県大垣市出身の漫画家・大今良時さんの作品「聲の形」がこのほど、「このマンガがすごい!」2015(宝島社主催)の「オトコ編第1位」に選ばれました。その世界では第一人者の大今さんが描いた骨髄バンクイラストが、静かなブームを呼びつつあります。同市在住の田中重勝全国協議会副理事長に紹介してもらいました。

「聲の形」は2008年の第

民踊団体メンバーと共に上京した際にお会いし、里帰りされたときに色紙をいただきました。その後、地元で協力できることがあるならとの思いを知り、図々しくも骨髄バンク

への協力をお願いしました。イメージとして、骨髄バンクの普及啓発に活用したいので、子どもに「命のアサガオ」の入ったノボリを持たせてはと提案したところ、「女の子でいいかな」などのやり取りの末、1枚のイラストを写真に描いていただいたのです。

ちょうど、全国骨髄バンクボランティア大会が大垣に向けて準備中でしたので、全てのチラシに刷り込み、等身大のパネルも作成して多くの方に骨髄バンクをPRしていただきました。現在でもこのパネルは健康祭りなどに出向き、骨髄バンク啓発に一役を担っています。

先日、大垣市文化連盟賞を受賞され、小川敏大垣市長へ挨拶されたのが新聞報道されたところでした。なお、イラストのデータ(フルカラー2MB)を希望される方は協議会事務局へご連絡ください。

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

朗読の感想を話してくれました。また、アトラクションとして落語家の三升家う勝さんの「ドナー体験」と題しての講演があり、「相手の心を思いやること」「わかってくれる人がいること」「力」など、心を打つ言葉に、皆真剣に耳を傾けていました。(埼玉骨髄バンク推進連絡会・山中孝之)

第17回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」が11月15日(土)、弘前大学で全国協議会ほかの共催で開催されました。

第一部では、「末梢血幹細胞とは」「無菌室ってどんなところ?」と題して青森県立中央病院の赤木副部長と坂本認定看護師の講演がありました。

第二部では、血液疾患と闘う患者さん、ドナー経験者、移植経験者の方からそれぞれ体験をお話いただきました。

白血病と闘う久ちゃん(70代) 写真には、とってもパワフルな女性! 60歳を過ぎてから高校を卒業し、今は青森市の寿大学生。次は大学院を目指す

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

「あのイラスト」が大今良時さん「聲の形」がまた受賞

岐阜県大垣市出身の漫画家・大今良時さんの作品「聲の形」がこのほど、「このマンガがすごい!」2015(宝島社主催)の「オトコ編第1位」に選ばれました。その世界では第一人者の大今さんが描いた骨髄バンクイラストが、静かなブームを呼びつつあります。同市在住の田中重勝全国協議会副理事長に紹介してもらいました。

「聲の形」は2008年の第

民踊団体メンバーと共に上京した際にお会いし、里帰りされたときに色紙をいただきました。その後、地元で協力できることがあるならとの思いを知り、図々しくも骨髄バンク

への協力をお願いしました。イメージとして、骨髄バンクの普及啓発に活用したいので、子どもに「命のアサガオ」の入ったノボリを持たせてはと提案したところ、「女の子でいいかな」などのやり取りの末、1枚のイラストを写真に描いていただいたのです。

ちょうど、全国骨髄バンクボランティア大会が大垣に向けて準備中でしたので、全てのチラシに刷り込み、等身大のパネルも作成して多くの方に骨髄バンクをPRしていただきました。現在でもこのパネルは健康祭りなどに出向き、骨髄バンク啓発に一役を担っています。

先日、大垣市文化連盟賞を受賞され、小川敏大垣市長へ挨拶されたのが新聞報道されたところでした。なお、イラストのデータ(フルカラー2MB)を希望される方は協議会事務局へご連絡ください。

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

朗読の感想を話してくれました。また、アトラクションとして落語家の三升家う勝さんの「ドナー体験」と題しての講演があり、「相手の心を思いやること」「わかってくれる人がいること」「力」など、心を打つ言葉に、皆真剣に耳を傾けていました。(埼玉骨髄バンク推進連絡会・山中孝之)

第17回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」が11月15日(土)、弘前大学で全国協議会ほかの共催で開催されました。

第一部では、「末梢血幹細胞とは」「無菌室ってどんなところ?」と題して青森県立中央病院の赤木副部長と坂本認定看護師の講演がありました。

第二部では、血液疾患と闘う患者さん、ドナー経験者、移植経験者の方からそれぞれ体験をお話いただきました。

白血病と闘う久ちゃん(70代) 写真には、とってもパワフルな女性! 60歳を過ぎてから高校を卒業し、今は青森市の寿大学生。次は大学院を目指す

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家

骨髄バンク命のアサガオにいがた(丹後まみこ会長)では、2013年9月に新潟市中央区弁天橋通2丁目の一軒家(土地付き)を当会にご寄付いただきましたが、当会の事業の一つである患者家族の支援事業として、2階の2部屋を患者家族の宿泊施設として活用することにしました。

この事業には、一般財団法人新潟ろうきん福祉財団様と県民たすけあい基金様から助成していただき、リフォーム・生活家